

基本的人権の尊重が憲法の基本

－ 連合北海道憲法学習会 －

連合北海道主催（連合渡島地域協議会共催）による「憲法学習会」が6月7日（金）18時30分より函館国際ホテルで行われ、桧山地域協議会や各地区連合会からの参加も含めて150名が集まり、講師の話に聞き入っていた。

今日まで、札幌を中心に積み重ねられてきた取り組みであったが、より一層幅広いものへと拡大をしていくことを目的に地域開催を行っていくこととなったもので、道南で開催されるのは初めての取り組みでもあった。



（宇都宮健児氏）

戦争は最大の人権侵害

講師に、元日本弁護士連合会（日弁連）会長・宇都宮健児氏を招き、「日本国憲法と人権保障」と題して行われた学習会では、基本的人権尊重が憲法の基本であることを中心に現状の社会状況について提起され、とりわけ、貧困と格差の拡大は医療・年金・介護などの生活保障費に関する様々な経費が削減されていることに起因しているとし、財政難といいながらも防衛費が7年連続で増額されていることも報告された。併せて、アメリカ追随姿勢の中で、貿易摩擦の影響が社会保障費削減に結びついていることも明らかにされた。

現安倍政権は、「抑止力強化をすることが平和に結びつく」と危険な解釈を行っていることにも触れ、戦争は最大の人権侵害であり、基本的人権尊重原理が中心的価値を持つことを参加者に強く訴えていた。

若者の自殺が後を絶たないのは、社会に失意を感じ、希望を見いだすことが出来ない現実への対応が出来ないからであり、相談窓口の強化や情報の把握・提供も命を救うことに結びつく重要な毒味であることや、子供や若者が希望の持てる社会作りが急務となっていることも参加者に訴え、「民主主義」とはなにかを改めて投げかけていた。



（会場風景）

参議院議員選挙は重要な闘い

講演は、1時間以上にも及び、基本的人権に対する取り組みを社会に定着させる取り組み、多くの差別や人権侵害と闘っていくこと等々について理解を求め講演を終えた。

参加者からは、子供の幸せは社会への希望であり、これらの取り組みをどのように子供達に伝えて行くべきなのかの悩みも出され、宇都宮講師にアドバイスを求めていた。

連合北海道・皆川道民運動局長から、北海道における取り組みの基本が提起された後、最後に挨拶を行った連合渡島地域協議会・長谷川会長は、「憲法の3原則を守るためにも拙速な論議での結論づけは許されない。積極的に世論喚起を行っていくことが重要である。また、

安倍政権に歯止めを掛けるためにも間近な参議院選挙は極めて重要である。講演内容について組織の中へ広がりを図ってほしい」と呼びかけ、「憲法学習会」を終えた。

連合の憲法に対する取り組み姿勢は、憲法の3大原則である「平和主義」「国民主義」「基本的人権の尊重」の貫徹を期すことを基本に、自民党の改憲の動きを注視し、対応を行っていくこととしている。又、そのために引き続き憲法を身近なものとするための学習を深めていくこととしている。